



# エビネ

東中レンガ通りの中ほどに「エビネ園」があります。エビネはラン科の植物で、半日陰の場所に生え、ふわふわで、通気性と保水性を兼ね備えた土を好みます。だから、「エビネ園」も落ち葉をそのままにして、朽ちるに任せているのです。きれいに掃き清めると、表土がカチカチになってしまい具合が悪いのです。みなさんも、エビネを鑑賞の際は、エビネ園の土を踏み固めてしまわぬようお願いいたします。かつては横浜市内の里山でふつうに生えていたエビネも、開発の波や、乱獲により、ほとんどその姿を消してしまいました。生息場所の条件にこだわりの強い生き物ほど、環境の変化に弱いという事実があります。エビネ達は我が身を持って、その事実を訴えているといえそうです。



本年も3人の教育実習生 **自然について思うこと** の先生方が、5月1日より東中で教育実習を行っていただきます。そこで、3人の先生方に自然について思うことを書いていただきました。みなさんどうぞお読みください。



・私の大学はとても緑が多く、桜だったり新緑だったり、その中を通って学校に行くのが、楽しみだったりします。視覚、メンタル、印象など、環境に与えられる影響は、すごく大きいですね。若葉台のような環境では、心まで豊かになるのではないのでしょうか。何気ない周りの景色に「気が付く」ということも大切なことだと思っています。

「英語科 中村 悠里 先生」



・先週、東中の体育館裏に咲く白つめ草を見つけました。皆さん気付きましたか？私の住んでいる場所にも、白つめ草やたんぽぽ、ねじり草が咲く原っぱがあります。でも最近のわたしは、それに気づくことも少なくなっていました。そんなときみつけた東中の白つめ草がとってもきれいで、その日は天気もよくて、なんだかうきうきしました。昔を思い出して白つめ草の花かんむりを作ったら、気持ちがほっとしました。こういう時間と環境をずっと大切にしたいです。

「美術科 長島 彩音 先生」



・東中の横の桜並木が植わっている道路は近隣公園のあたりで曲がっています。桜が花開くころに棟の最上階まで行って見おろすと、S字の曲線を描いた桜並木になるわけです。桜のトンネルは、くぐる分には直線の並木道が気持ちいいですが、上から眺めるならS字のほうがおもしろみがあったりします。若葉台のイチョウ並木も好きなので、黄葉が盛んな頃に冬の前触れを感じさせる冷たい雨が降って葉が散るのを見ては毎年せつない気分させられています。

「国語科 広瀬 崇明 先生」